

「慶應 SFC 社会安全政策論教育連合会発足プロジェクト」 成果報告書

環境情報学部 3 年
二宮 秀太

■ 活動概要

- ・ 活動日程・会場

平成 27 年 9 月 26 日、新宿プリンスホテル（東京都新宿区歌舞伎町 1-30-1）

- ・ 参加者数

38 人

■ 活動の目的

社会安全政策論は、「国民のために、犯罪等から社会の安全・安心を良的に維持する（あるいは向上させる）ための政策の在り方を研究するもの」と定義され（2011 年、小林良樹）、平成期に入り休息に悪化した犯罪情勢の背景から、現在注目されている比較的新しい学問の一つである。

本プロジェクトは、「社会安全政策論」において、学者、各省庁関係者、民間企業等の各アクターと連携し、現在の SFC における社会安全政策論研究における交流環境、およびこれから社会安全政策論の研究を開始する研究者に向けた環境の整備、運営の維持体制を構築し、知の共有を図るためのシステムと土俵を築くことを目的として開催した。

■ 活動の成果

警察庁 OB・現役職員 6 名、テロ対策有識者研究者 1 名をお呼びし、昨今の治安対策における活動・研究の近況報告および今後の展望についてお話を伺った。また、現役学部生として社会安全政策論研究を進めている岡部正勝研究会より、社会安全政策論研究のコミュニティサイト開設に向けたプロジェクト発表を実施した。フリートークの時間を設定し、研究会 OB・OG の方々との研究相談や社会人から見た社会安全政策論について、対話を実施した。ゼミ生の中には、今後の研究に向けたフィールドワークを紹介して頂いた学生もいた。

■ 今回の研究成果をふまえた今後の研究活動の展望

今後の活動として、社会安全政策論教育連合会の Facebook ページを用いたコミュニケーションを通して議論を活発に行っていきたい。また、同じく社会安全政策論の研究を進めている中央大学のゼミ生との意見交換を行い、研究機関同士の情報共有を活発的に進めていきたいと考えている。

また、今回の連合会の開催を通して、各機関の実務家の方々と接することで、研究における「現場に赴く」ことの大切さを学んだ。文献だけでなく、実際の現場における社会安全について感じることをお話をお聞きすることができたためである。今後の研究会活動として、フィールドワークを多く取り入れ、実学としての政策立案に取り組む姿勢を大切にしたいと考える。また、連合会の会員である各分野の皆様には、研究会活動としてのフィールドワークとしての歓迎のお言葉を頂いたため、連合会の発足を契機に、様々な分野へ足を運び、今後の研究に生かしていきたい。

■ 謝辞

「慶應 SFC 社会安全政策論教育連合会発足プロジェクト」を実施するにあたり、湘南藤沢学会様に厚く御礼申し上げます

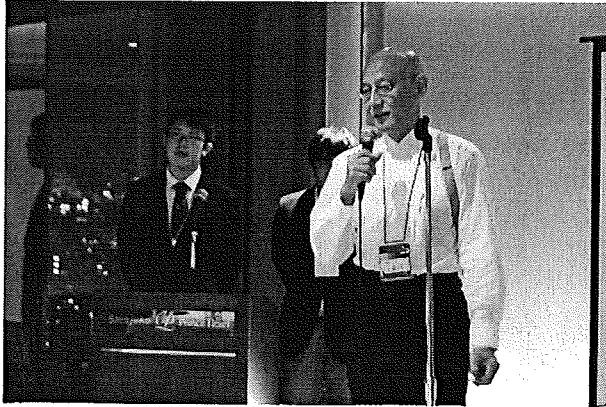


図 1 坂明氏（一般社団法人日本サイバー犯罪対策センター理事）ご講演

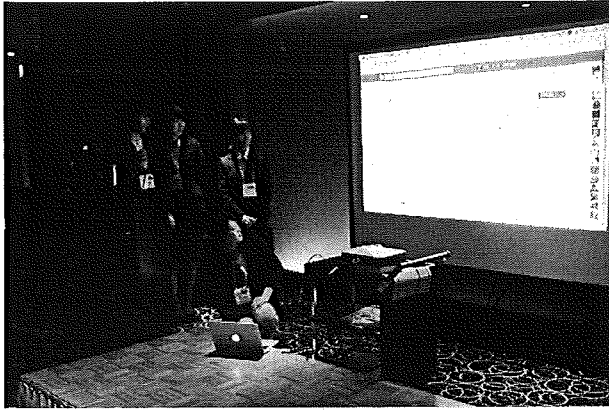


図 2 学部生による研究プロジェクト紹介